

# 科学研究費助成事業（基盤研究（S））公表用資料 〔令和4（2022）年度 中間評価用〕

令和4年3月31日現在

研究期間：2020年度～2024年度  
課題番号：20H05632  
研究課題名：行動経済学の政策応用—医療、防災、防犯、労働、教育—

研究代表者氏名（ローマ字）：大竹 文雄（OHTAKE Fumio）  
所属研究機関・部局・職：大阪大学・大学院経済学研究科・特任教授（常勤）  
研究者番号：50176913

## 研究の概要：

本研究は、医療、防災、防犯、労働、教育などの政策現場で直面する問題の解決策を検討することを目的として、アンケート調査、ランダム化比較試験、経済実験という行動経済学的手法を用いて分析する。その際、日本人の行動経済学的特性を明らかにした上で、様々な政策課題の解決に有効なナッジを見つけ出すことを目指す。行動経済学の実務的応用研究を通じて、行動経済学的な基礎的特性を明らかにする。

研究分野：行動経済学、労働経済学、医療経済学、教育経済学

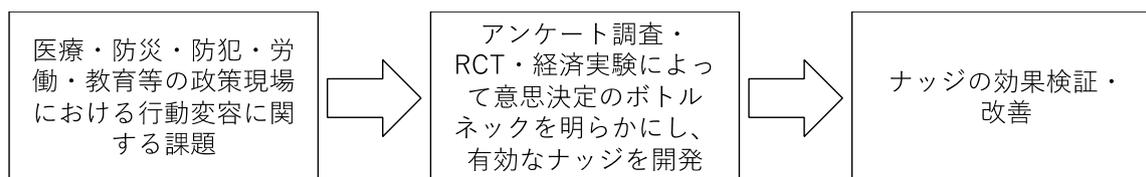
キーワード：ナッジ、医療、労働、教育、防犯

## 1. 研究開始当初の背景

伝統的な経済学では、人々の行動変容を促すのは、税・補助金により価格や罰則を通じた政策だけだと考えられてきた。背景には、人々は情報さえ与えられれば、合理的な意思決定ができるという前提があった。ところが、医療、防災、労働、教育、防犯等ではその前提が成り立たない場面がある。そこで注目されているのが行動経済学であり、ナッジと呼ばれる非金銭的介入が人々の行動変容に有効だという研究が増えてきた。しかし、ナッジを政策手段として用いる場合には、行動経済学的特性の異質性の存在とそれへの対処への対処、ナッジの長期的効果など不明なことも多いという課題があった。

## 2. 研究の目的

本研究においては、医療、防災、防犯、労働、教育という具体的な政策現場において、どのような行動経済学的介入が有効であるかを、アンケート調査、RCT、経済実験によって明らかにする。有効なナッジを作成するためには、それぞれの現場で人々がどのような過程で意思決定をしているかを検討し、意思決定のどのプロセスでバイアスが生じているために望ましい行動がとれないのかを明らかにする必要がある。その上で、そのバイアスを修正するために、どのような行動経済学的な介入が望ましいかを検討し、実際に介入してその効果検証を行う。



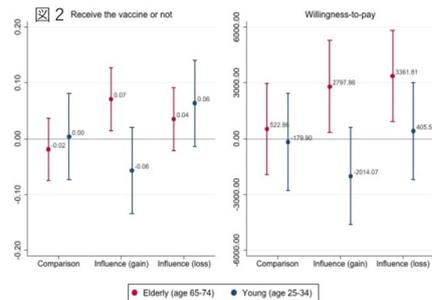
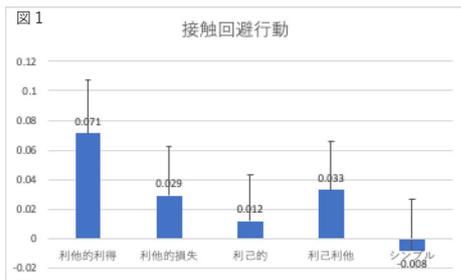
## 3. 研究の方法

研究の方法は、介入研究が可能な分野と困難な分野で大きく二つに分かれる。フィールド実験やオンライン RCT 調査が可能な場合には、政策課題の背景となっているボトルネックをインタビュー、統計調査、行動経済学の理論から検討し、行動変容に有効なナッジの候補を複数検討する。ナッジの候補について、オンライン RCT、フィールド実験による効果検証をする。その際、ナッジの効果の対象者による異質性の特性や短期的効果と長期的効果を計測できるように工夫する。このタイプの手法を取っているのは、COVID-19 の感染症対策やワクチン接種促進に有効なナッジメッセージの開発や、災害時の避難促進メッセージの開発、特殊詐欺防止策の普及対策、保育所への積み木セットの効果検証などである。

一方、同一個人を追跡調査し、パネルデータを構築することで、様々な政策的なショックや環境の変化による影響を特定して、政策効果を検証するアプローチも用いている。具体的には、コロナ禍で同一個人を追跡調査することで、感染拡大の波、感染対策、ワクチン接種などで、人々の感染対策や行動経済学的特性がどのような影響を受けたか、教育における成績・非認知能力のパネルデータの構築で、コロナ休校がそれらにどのような影響を与えたかなどを分析する。パネルデータの分析から明らかにされたことからフィールド実験、オンライン RCT での効果検証を行う場合もある。

#### 4. これまでの成果

多くの成果が出ているが、ここでは COVID-19 関連のものを紹介する。まず、COVID-19 の感染対策を促進するための行動経済学的なメッセージの効果検証を行った。Sasaki, Kurokawa, Ohtake (2021, JER)では、緊急事態宣言中に、6つのメッセージをオンライン調査でランダムに送付し感染対策への効果を検証した。その結果、利他的利得メッセージが実際に人との接触回避に短期的効果をもった(図1)。Sasaki, Saito, Ohtake (2021,SS&M)は、どのようなメッセージがワクチン接種意欲を高めるかを検証し、利得フレームの社会的影響メッセージが高齢者のワクチン接種意欲を高めることを明らかにした(図2)。次に、コロナ休校の影響についての分析 Yamamura, Tsutsui (2021, J Popul Econ)は、COVID-19 の感染拡大予防策として行われた学校の一斉休校が保護者のメンタルヘルスに与えた影響を分析した。その結果、学童の母親は他の女性と比較してメンタルヘルスが悪化する一方、父親のメンタルヘルスは他の男性と差がないことが示された。Yamamura, Tsutsui (2021, Rev Econ Household)は、コロナ休校で小学生の母親がテレワークをする傾向を高めたことを明らかにした。



#### 5. 今後の計画

(医療の行動経済学) 2022年度においては、COVID-19に関わる行動経済学的研究を継続する。医療関係者と継続的に研究会を開催して、行動経済学的介入で解決の可能性がある医療現場での課題を探し出し、その介入効果を検証するという研究を続ける。

(防災の行動経済学) 2022年度においては、避難行動を呼びかけるメッセージの効果について、就業状態に着目した異質性の分析を行う。

(防犯の行動経済学) 2022年度においては、2021年度から行っている特殊詐欺対策の警察署との共同での介入研究を継続する。

(労働の行動経済学) 2022年度においては、COVID-19がテレワークの実施に与えた長期的影響について分析を行う。COVID-19の感染が収まってきた段階で、企業での介入研究を実施する。

(教育の行動経済学) 2022年度においては、2020年の全国一斉休校および2021年度のCOVID-19の第6波の流行による学級閉鎖が学力および非認知能力に与えた影響について分析を行う。

#### 6. これまでの発表論文等(受賞等も含む)

"Nudges for COVID-19 voluntary vaccination: How to explain peer information?" Shusaku Sasaki, Tomoya Saito and Fumio Ohtake, *Social Science & Medicine* (査読有), Vol. 292, 114561-114561, January 2022.

"Effective but fragile? Responses to repeated nudge-based messages for preventing the spread of COVID-19 infection," Shusaku Sasaki, Hirofumi Kurokawa, and Fumio Ohtake, *The Japanese Economic Review* (査読有), Vol. 72, 371-408 June 2021

"Reciprocal and prosocial tendencies cultivated by childhood school experiences: School uniforms and the related economic and political factors in Japan," Sun Youn LEE, Takahiro Ito, Kohei Kubota and Fumio Ohtake, *International Journal of Educational Development* (査読有), Vol.83, 102396, May 2021.

"How Conscious Are You of Others? Further Evidence on Relative Income and Happiness," Sun Youn LEE and Fumio Ohtake, *Journal of Happiness Studies* (査読有), Vol.22, 3321-3356, February 2021.

"School closures and mental health during the COVID-19 pandemic in Japan," Eiji Yamamura, Yoshiro Tsutsui, *Journal of Population Economics* (査読有), Vol.34(4) 1261-1298, 2021

"The impact of closing schools on working from home during the COVID-19 pandemic: evidence using panel data from Japan," Eiji Yamamura and Yoshiro Tsutsui, *Review of Economics of the Household* (査読有), Vol. 19(1) 41-60, 2021

"How does the Impact of the COVID-19 State of Emergency Change? An Analysis of Preventive Behaviors and Mental Health Using Panel Data in Japan," Eiji Yamamura and Yoshiro Tsutsui, *Journal of Japanese and International Economies* (査読有), Vol.64, 101194, 2022

#### 7. ホームページ等

<http://www2.econ.osaka-u.ac.jp/~ohtake/>、[ohtake@econ.osaka-u.ac.jp](mailto:ohtake@econ.osaka-u.ac.jp)